–-

**18７号**

**大鹿村中央構造線博物館たより**

**TEL:(0265)39-2205**

**2024年12月発行**

**の**

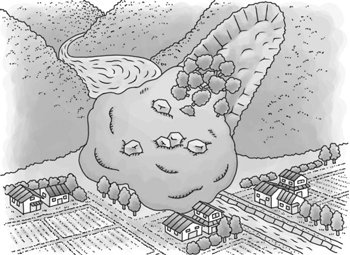
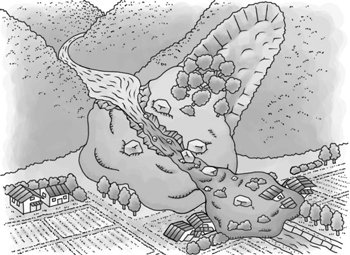
先日、飯田市(旧南信濃村)の遠山川にて、の痕跡を見る機会がありました。河道閉塞とは、山崩れなどにより土砂が川をせきとめ、上流側に水がたまる現象のことをいいます。天然ダム、土砂ダムなどと言われることもあります。

遠山川の木沢地区周辺では、近年、河床が低下しており、川底に埋もれていた木があちこちで姿を現しています(写真1)。これらの埋もれ木の年輪から枯れた年代を調べたところ、西暦714年ということがわかったそうです。古文書によると、714年には、遠江地震が発生したことが知られていることから、これらの埋もれ木は、遠江地震によって、山崩れが起きて、遠山川がせきとめられ、上流側に湖ができたことで、水没して枯死したのではないかと考えられています(\*1)。近くには、湖の周辺で堆積したと思われる砂・シルトからなる地層も見られました(写真2)。

**写真1 遠山川の埋没林(木沢地区)　　　　　写真2 湖に堆積したと思われる砂・シルト層**

河道閉塞は、大きな地震や豪雨の時に、しばしば発生し、被害が出ることがあります。上流では湛水による家屋等の浸水被害が出る可能性があります。また、下流側では、万が一、急に決壊した場合には、せき止めていた土砂と大量の水が一気に流下し、洪水や土石流被害が起きることがあります(図1)。そのため、河道閉塞が発生を検知することは防災上重要です。最近では、令和6年能登半島地震の際に、国土交通省によって、6河川14箇所で河道閉塞が確認され、優先度の高い順から排水工事や監視体制の構築がなされました (\*2)。

**図1 河道閉塞の発生と決壊**

**資料提供　NPO法人土砂災害防止広報センター**

大鹿村でも、昭和36年の集中豪雨で大西山が崩れたときに、小渋川に河道閉塞が発生しましたが、20分後には決壊したそうです(\*3)。また、入谷地区では、長年、大がかりな地すべり対策工事が行われてきましたが、これは、万が一、塩川に河道閉塞箇所ができた後、決壊すると、下流の大鹿村役場や周辺人家に甚大な被害が及ぶ危険があるため、河道閉塞を起こさないことを目的とした工事でした(\*4)。 (宮崎)

**参考文献**

**(\*1)飯田市文化財保護情報サイト「遠山川の埋没林と埋没樹」参照**

**https://www.city.iida.lg.jp/site/bunkazai/maibotsurin.html**

**(\*2)国土交通省ホームページ「令和６年能登半島地震に伴う河道閉塞（土砂ダム）の発生と対策状況について」**

**https://www.mlit.go.jp/report/press/sabo01\_hh\_000161.html**

**(\*3)社団法人中部建設協会(2011)「想いおこす三六災害」参照**

**(\*4)令和4年度　第4回中部地方整備局事業評価監視委員会　開催結果 配布資料　入谷地区直轄地すべり対策事業 説明資料**

**https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/jigyou/data/r0412/100\_shiryou10.pdf**